



たかおか

2022
September

NO.773

9

【特集】 DX推進の第一歩
中小・小規模事業者向け



DX

推進の第一歩

中小・小規模
事業者向け



御社のDX推進を本気で考えてみませんか？

最近よくDX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉が頻りに耳にするようになりました。官民を問わず登場する言葉であり、取り組まなければならないと多くの方が認識されています。

一方で、このDXは正しく理解すればプラスの影響、正しく理解しなければマイナスの影響を与えるものです。特に、DXに取り組む方は、知識量を増やし、自社への適用を企画することが重要です。

DXの概要および中小企業がDXに取り込む必要性

DXの定義はさまざまですが、汎用的に訳すと「デジタル技術を活用した既存ビジネスの変革や新たなビジネスを創造すること」になります。デジタル技術は、日々進化しており、IoTやAIに代表される技術は、事業の一部として取り込まれ、従来とは異なる価値を生み出しています。

結果、企業の競争力を高める一翼をDXが担うシーンが増え、多くのメリットが生まれており、その一例を紹介します。

①働き方改革への対応

コロナ禍における事業継続、ワークライフバランスを実現するテレワークなど、多様な働き方を可能にします。

②業務生産性の向上

業務の一部をシステムに集約し、自動化などから作業時間を減らし、顧客対応へ集中できます。

③新しい顧客価値の提供

蓄積したデータとデジタル技術を組み合わせることで顧客に新しい体験を届けることができます。

①～③全体のビジネスプロセス最適化

多様な業務が複雑に動き続けるビジネス活動をデジタル技術で最適化することで、無駄な活動やリソース(会社の資源)を発生させないことが実現できます。

これらはメリットの一部でしかなく、社員の能力を引き出す、技能を伝承するなど、その他数多くあることを理解することが大切です。また、企業規模に関係なく、業績を伸ばしている会社は、デジタル技術を徹底的に活用しています。中小企業におけるDXは、限られた人員・予算しかなく、取り組めることは何もないと諦めている方がいらっしゃるかもしれませんが、刻一刻と社会の動きが変わっていく中で、人員と予算を気にして嘆いてDXに取り組まず、取り残されてしまうよりも、まずは身の回りの課題からデジタル技術を用いて改善することが第一歩です。

DX導入までの流れと留意点

DX推進の意思決定ができた後は、過去の事例を基に整備した導入プロセスを理解することが、成果創出の近道となります。まず前提として、DXは一朝一夕に実現されるものではありません。DXを推進する際のビジョンは大きく、プロセスは堅実に進め、下記のステージ・ステップアップを確実に行うことが成果を生み出します。

■DXは段階的に推進

現状から事業ビジョンのあるべき姿に到達するためには、多くのアクションが求められます。

(1)ステージ0

コミュニケーションのデジタル化によるオンライン上でのビジネス活動を推進

(2)ステージ1

業務の見える化により、属人化された情報、煩雑な情報の管理を視覚化と共有化

(3)ステージ2

業務を高度化し、顧客・社内対応、および他社との連携サービスを強化して個別課題を解決

(4)ステージ3

業務のデジタルトランスフォーメーションを行うことで、業務全体の最適化、および新規ビジネスを創出

ポイント!

DXという言葉の響きに応じ、ステージ3からいきなり始める方がいますが推奨できません。

DX推進の根幹は「データを価値化する」ことにあります。データを収集、蓄積、整備、分析、評価する環境をステージ0～2を通して構築します。

急がば回れではありませんが、短期成果だけにとらわれるのではなく、中長期の視座を持って活動することが経営者に求められます。

■データを知る/キレイな(デジタル)データについて重要性を認識

正しく、欠損値の少ないデータを持つことでデータ分析やAI適用での成果が生まれます。

自社データは貴重ですが、自社だけでは限界があり、パートナー、オープンデータなどを活用します。

■デジタル技術・AIを知る

データを生かすデジタル技術を使った新価値創出の効果は、「非属人化」、「省力化」、「品質向上」の3点に大別されます。

■課題起点、仮説思考、業務知識ありき

技術、データではなく、課題から解決策を着想します。

デジタル技術の利活用そのものが目的化しないように課題解決志向を持つべきです。

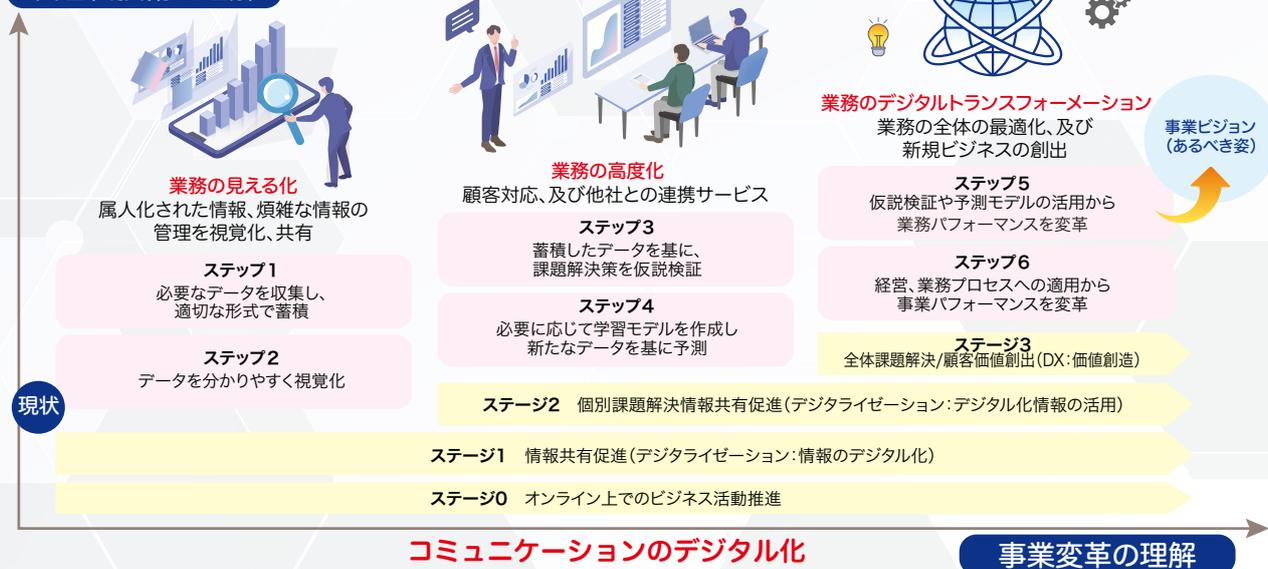
■デジタル人材の育成・採用

最低でもひとり、企業内に主要なデジタル技術の概念を理解している担当者の育成・採用は必須であり、ベンダーマネジメントを確実に実施するためにも知識習得が必要となります。

■伴走してくれるパートナー

デジタル技術の活用ポイントや未知のデータは多くあり、技術やツールはもちろん、データそのものにも精通するパートナーの存在が必要となります。

次世代技術の理解



導入事例 〈看板屋からテクノロジー企業への変貌〉

「DXは段階的に推進する」ことで会社を大きくトランスフォーメーション、変革した事例(過程)を紹介します。

(1)ステージ0

オンライン上で社内外のコミュニケーション可能な環境を提供し、ビジネス活動スピードアップ。

(2)ステージ1

デジタルツールを基軸とした営業活動の見直しから、既存顧客のニーズやクレームなどが見える化し、確実に対応し続けることで関係性を強化。

(既存事業の強化から利益拡大)

(3)ステージ2

広告効果の測定をデジタル技術から構築し、顧客の長年の課題、「広告効果が見えない」を解消。

(収益をイノベーション投資し、成長率の高い市場を形成)

(4)ステージ3

現実世界の広告が価値計測可能となり、看板屋からデジタルマーケティング会社へ移行。

(既存事業とイノベーション事業を融合し新産業を起こす)

ポイント!

ステージ1まで2年程度、ステージ3までさらに2年程度かけた変革でしたが、いまだに歩みを止めていません。DXの目的の1つである企業競争力を高めるには、常に変革しつづける組織を形成することが重要であることを示唆しています。



皆さまのDX推進に当所は全力でお手伝いします。
まずは、お気軽にご相談ください。

【 問合せ先 】 中小企業相談所 ☎ 0766-23-5007

PHOTO LIBRARY



創志会が視察、講演会を開催
坂下町における連続した空き物件をリノベーションした事例を学ぶ

当所創志会は、坂下町の空き物件をリノベーションした「サカサカ」を視察訪問し、(株)スタジオオオスガの大菅氏より不動産活用推進等の取組みについて説明を受けた。その後、商工ビルで「空き家有効活用によるわくわくの連鎖」と題して当会メンバーのたかまち鑑定法人(株)の服部氏より「サカサカ」をオープンした目的や苦労した点、今後の展望についての話を聞いた。参加者らは、今後の高岡の活性化に活かすべく、市民と行政が一体となってまちづくりを行っていく重要性について認識を深めた。



GO!GO!スタンプラリー 2022 開催中

藤子・F・不二雄先生のふるさと高岡を巡る

高岡商工会議所では、今年度も藤子・F・不二雄先生のふるさと高岡を巡るスタンプラリーを開催している。高岡駅にある「高岡市ドラえもんポスト」やウイング・ウイング高岡にある「ドラえもんの散歩道」等の藤子・F・不二雄先生ゆかりの地8カ所にポイントが設定されており、市内外から夏休み中の子どもたちが高岡市に訪れ、スタンプラリーで楽しむ姿が多く見られた。期間は9月30日(金)まで。



能越商工観光懇談会・富山県西部産業開発協議会 県へ提言要望

県西部地域の整備促進を要望

当所、塩谷雄一会頭が会長を務める能越商工観光懇談会(能越地域の商工会議所・商工会で構成)と富山県西部産業開発協議会(富山県西部地域の行政・商工団体・民間企業で構成)の2団体が富山県へ提言要望を行った。JR城端線・氷見線のLRT化による直通化に向けての鉄道整備、能越自動車道や国道の整備促進などの他、港湾整備・河川整備・地域環境整備・中小企業支援対策などについての要望書を提出した。



デジタル人材育成セミナー

デジタルを活用した業務効率UPセミナー

日々行っている業務を振り返り、その改善にデジタルを活用し、簡単に業務効率アップを目指すセミナーを高岡商工ビルで開催し、10社11名が参加した。講師の榎よしだまこと事務所 代表取締役 吉田 誠 氏からは、監視カメラやスマートマッククラウド等のデジタル機器、クラウドサービスやコミュニケーションツールといったサービスを活用し、業務効率を改善する方法について紹介があった。参加者は少ない労働力でも生産性を向上させる事例を学んだ。



女性会定例会を開催

初体験のeスポーツを楽しむ

高岡商工会議所女性会がeスポーツ体験会を高岡商工ビルで開催し、会員13名が参加した。

この日は、『太鼓の達人』と『Nintendo Switch Sports』の2種類のゲームを実際に体験した。『太鼓の達人』では、リズムに合わせて太鼓を叩いたり、手拍子を打ちながら観戦し、盛り上がりを見せた。『Nintendo Switch Sports』では、ボウリングなどさまざまな競技を行い、全身を動かしながら楽しんでいる様子が見られた。この体験を通して、健康維持や認知症予防など幅広い効果が期待されているeスポーツについて理解を深めた。



高岡スタートアップ塾 第2回講座開催

創業に活かせる戦略セミナー

高岡商工会議所では経営者、創業予定者が、「県西部地域の偉人」や「地元・高岡出身経営者」の思いや取組みを学ぶことで、自社経営の改善・変革等へのきっかけを掴み、参加者同士の意見交換や仲間づくりの場になることを目的として高岡スタートアップ塾を、高岡商工会議所青年部と共催で開催した。第2回講座では、株式会社出前館 前代表取締役社長 中村 利江 氏が「出前館に学ぶ新形態の創出」と題して講義を行い、20名が参加した。講演後は商工レストランにて懇親会を開催し、塾生同士で親睦を深めた。



会頭杯会員親睦ゴルフコンペ

鮮やかな芝生の上で交流を育む

会頭杯会員親睦ゴルフコンペを花尾カントリークラブで開催し、78名が参加した。これは、当所議員をはじめとする会員企業、高岡商工会議所緑水会、高岡青年会議所の交流・親睦を深め今後の事業活動に活かすことを目的に開催している。当日は残暑の合間の過ごしやすい天候の中、プレーを楽しみながら親睦を深めた。また、新型コロナウイルス感染症の対策を講じて、高岡商工ビル2階大ホールで表彰式を行い、各賞を表彰した。優勝は株加藤左官工業所の夏野茂夫氏。

